

平成 2 2 年 5 月

[配布先：全組合員]

## 市場情報

### <地区市場動向>

#### 北海道

##### 三重苦で一段と深刻

桜前線も北上、各地から花の便りが聞こえてきますが、今年は異常気象、もうすぐゴールデンウィークを迎えようとしていますが、天気予報では雪ダルマさんのマーク、桜の開花も相当遅れそうです。天候不順は、農業立国北海道にとっては大きな痛手です。

道内鉄骨概況は、3月の積算数量は1万950トン（前年度比▲35%）となり、2009年度累計数量は8万7235トン（同▲40.9%）で過去最低水準となった。この数字が示す通り、需要構造の中心である建築鉄鋼の冷え込みは著しく、ようやく民間小規模物件が出始めたが、依然として手持ち工事量・工場稼働率ともに低迷、早くも夏枯れ減少も心配され、ゼネコンのダンピング受注により厳しい単価、材料の値上り等により三重苦に見舞われている。

橋梁については、期待されたゼロ国・補正での発注は、僅か1250トン（前年度比▲67.5%）、今年度発注見込みは1万2920トンで、累計1万4170トン（前年度比▲37.9%）と非常に厳しい状況である。

公共投資の影響が大きい北海道にとっては、「コンクリートから人へ」から、「人の役にたつコンクリートへ」に政策を転換してもらいたいものである。

切板については、前述の通り建築鉄骨、橋梁ともに回復見込みは薄く、我慢の時期が続いている。切板価格は鉄骨価格の急落により、ファブからの指値は一層厳しさを増している。出血・値引き合戦をしても大幅な受注増は期待できない状況であるが、需要不振に加え切板受注価格の大幅な値上げにより、この先更に状況の悪化が予想されるだけに、より深刻な事態である。

道内の建築業界は、長期にわたる公共投資の抑制と、過当競争で疲弊している。与信問題は一層深刻さを増し、また、需給バランスの悪化を示す足元の高い在庫率の改善が急務である。

（玉造柊・西村卓也）

## 九 州

## 価格転嫁進まず

10年2～3月以降、メーカーの鋼材値上げの姿勢、又引き受け枠の背景を受けユーザーより手持ち物件の受注が増加した。

若干メーカー値上げ分の転嫁を見せているが、満足できる状況ではない。3月よりのメーカー鋼材価格の値上げで、仕入コストは大幅に上がったにもかかわらずトレンドは下を向いたままのように感じる。

公共事業投資が更に落ち込み、産業機械分野も大きな影響を受けている。

10年4月は、ユーザーの手持ち物件の受注も一段落し、1月以前のレベルに戻りつつある。又、太陽光発電装置、有機エレクトロルミネッセンス、スリー・ディメンションは依然好調な需要の展開を見せている。

(門倉剪断工業・白水正幸)

## 建築は2Q以降上向きへ

全般的に需要は低調である。

建築案件は、昨年と比べるとやや明るさが見えるが、本格化にはまだ時間を要する。稼働は第2四半期から少しずつ上向き始め、低調ながらも第3四半期ピークを迎える。

橋梁は極端に減少している。昨年度の契約残を消化しているだけで、10年度案件は夏以降の出件になると思われる。橋梁需要20万トンの予想に業界関係者に失望感が広がっている。

一方造船は、新規契約は低水準ながらも短納期・低船価のバルカーの発注が行われるなど(まだ韓国造船がメインであるが)やや明るさが見え始めている。契約残の消化はコンスタントに行われており先行き2～3年は現状の生産が行われていく見込み。

サブシャーの稼働は上がりず低調なままである。切板単価もまだ安値が散見されるなど価格転嫁の動きはあるものの、需要が少ない中、価格転嫁というにはほど遠い状況が続いている。

(豊鋼材工業・橋本勝美)

## 市場委員会の次回開催予定

第145回市場委員会

6月11日(金)正午～

於 大阪・「ラマダホテル」